

平成二十二年 元旦

年 頭 所 感

大川創業株式会社

代表取締役社長

大川真一郎

謹賀新年。

今年庚寅の年、安岡正篤先生の言に依れば、庚は三つの意味がある。第一は継続。第二は償う。第三は更新。つまり前年から断絶する事なく継続して色々な罪、穢れを拭い浄めて償うと共に、思い切つて更新して行くのが庚の意味。一方、寅の字は真中は手を合わせる、約束する象形で下の八は人。「慎む」の意があり、また寅は演に通じ、進展を意味する。志を同じくするものが情性を排し協力し合つて創造、建設すべき年となる。大きな変化を期待して国民は民主党を選んだ。お互いに協力し合つて国難に当たる必要がある。そこで今年の書初めは、一昨年の

「森羅万象 有り難う」

昨年の

「泰然自若 常に感謝」

に対し、

「諸行无常 因果応報」と書いた。「諸行無常」と云えば

平家物語の冒頭の言葉

「祇園精舎の鐘の声

諸行无常の響き有り

沙羅双樹の花の色

盛者必衰の理をあらわす

奢れる者も久しからず

ただ春の夜の、

夢の如し

たけき者も

ついに減ぐぬ

ひとえに

「風の前の塵に同じ」

とあるように栄誉栄華を極めた平家が壇ノ浦で一族郎党あつと言ふ間に海の藻屑と消えたと無常を無情なさけないと解釈して、哀れを連想させた。また宗教家は「諸行無情」に「因果応報」をくつつけて、「前世の因縁でこうなったのだから諦める。仏に帰依すれば救われる」と説いて信者を殖やしていったが私は違う。「時代は大きく変ろうとしている。今はビッグチャンスだ。大いに智慧を出し、夢に向かって行動した者は報われる面白い時代だ。正直者は馬鹿を見ない。怠けたら怠けた通りの結果になる」という意味に解釈する。

鳩山首相は二十年までに温室効果ガス削減二十五％と叫んだ。八％目標だつて達成できないのに何を言っているかと、一斉に非難の声が挙がつたが、首相が五十％削減と叫べば二十五％位は達成できる。

昔、松下幸之助はコストダウンの十％は難しいが五十％削減の方が易しいと云つた。発想の転換ができるからだ。庚寅の年は正にこの為にある。

一昨年原油価格が高騰し、投

機筋が汗を出して働く者達を困らせた。昔、原油一バレル四十ドルになれば代替エネルギーは成り立つと云つていたのに、七十ドルになつても政府は何もしなかつた。百四十七ドルまで高騰してやつと太陽光発電が新聞を賑わせた。すると太陽熱発電の方が太陽光よりコストが安いと来る。いや潮流、風力、砂糖キビ等々。自然エネルギーが登場したが、究極のエネルギーは水だ。泥水や雪でも車が走らせるといふ。「石油を使わない代替エネルギー研究者には開発費を国が支援する。特に赤字企業には再生のチャンスを与える」と打上げれば「列島改造論」どころじゃない。あつという間に景気は回復するだろう。

一度バブルを体験している日本を元に戻すくらい訳ない筈なのに、小泉の郵政改革は抜本的対策をせず自らの手で自民党を壊し、景気は回復しなかつた。

民主党政権になり、事業仕分けで徹底した経費の無駄遣い排除は、かつて自民党が一度も手をつけた事のない聖域で、官僚の思うがままに税金が使われてきた。その結果埋蔵金は七兆円にも達した。使いも使つたり、貯めも貯めたり。十年間の税金を徴収しなくてもよい額の埋蔵金がある。いや不良貸付金になつている。休眠中の財団法人からは返金してもらえなるとか、色々御託を並べて官僚は弁明に務めて「無い」と主張するであろうが、政府はこれはハッキリと取り立て不可能

と判断した不良債権の額だけ、昨年述べたが、政府主導で紙幣発行すればよい。国債でないから返済する必要はない。政府だけにできる特権だ。私が紙切れを印刷すれば二セ札作りで逮捕されるが、政府ならOK。昨年それを喋ると皆に笑われたが、先日元出雲市長で、元民

主党の国会議員でもあつた岩国哲人氏が同じ事を一年後に言われたので安心した。しかし元民主党員で、同じ釜の飯を喰つた仲間の言う事に耳を傾けずに、「国債」を発行すると子々孫々に借金ツケが回ると叫んでいるのは何故か。国民に借金はいらない。税金を取り立てたい。その一心だとは思えない。

アメリカはドルが百四円位から八十四円にまで下がつた。というのはリーマンショックで多額のドルを失つた。だから昼夜二十四時間フル回転で紙切のドルを印刷しているからドルの価値が下がつたのだ。

他国も遅れずと輪転機を廻しているのに、日本はマスコミも悪い。「デフレに打つ手なし」と書くものだから、政府は何もできないで、円の独歩高。事業仕分けで造幣局の統合を考えている暇なんか無い。じやんじやんフルに紙幣を刷つて一ドル百円台に戻さないとデフレのアリ地獄に陥つてしまう。日銀はデフレ宣言した翌日、素早く十兆円を市場に供給すると報じた。しかし、よく新聞を読んでみると〇・一％の金利をつけるという。何だ、只で貸し与えるのでなく貸し出すと

いうのだ。日銀は我々民間企業に貸すのではなく、金融機関を通じてなければ貸してくれない。各金融機関はすでに貸して大丈夫な企業には貸し切つてしまつてゐる。今頃貸して呉れないと年を越せないと叫んでいるのは、貸しても返してもらえないのかどうか解らない企業だ。そんな危ない企業に各金融機関が日銀から借りても、貸し倒れになつてしまふ。返してもらえないリスクを負つてまで各金融機関は日銀から金利を払つて借りるだろうか。金利〇％、あるとこ払いの催促無しと宣言すれば、じゃ貰つたも同じと借りるだろうけれども。この十兆円三ヶ月間で消化しなければならぬとすると、結局国債、つまり国民につけが回る。国債を発行せずに、つまり国民に借金せずに、チャンと錬金術があると云うのに。

私が首相なら、公務員の給料、ボーナス。子供手当、児童手当、学生の授業料、失業手当、オーケストラの学校巡回コンサート。ダムもムダじゃない。事業仕分けで官僚の渡り歩きを助長する天下り給付金だけは全面禁止するが、国民の為にやるものは、直ちに不況対策に大盤振る舞いで市場にお金を放出してデフレを脱却しないと日本は破綻してしまふ。

そんな事をしてバブルを心配する人に聞きたい。あのバブル期に何人の日本人が困つたのだらうか。勿論投機筋の人の失敗は論外である。バブルで困つたのでなくビス規制で金融機関が金を貸せなくなつたか

らバブルがはじけたのだ。日本のバブルを苦々しく思つたのはアメリカ人であつた。ニューヨークの一等地を次々日本人がバブル期に買い漁り、東京都の土地売つたらアメリカ全土を乗っ取る事ができると豪語する奴がいたから、ユダヤ資本は日本を叩いたのである。

あの時、イギリス経済学者は、ビス規制なんて国際ルールではない。と忠告しているのに、貸し出し枠は総資産の八％以内にというビス規制を日本の金融機関は金科玉条に守つた。た為に、バブルは崩壊してしまつた。

今一つユダヤ資本で氣をつけないといけないのは、新型インフルエンザ。連日の様にワクチンと学校閉鎖を報じていたが、新型インフルエンザで一体何人死んだのか、たつたのと言つたら亡くなられたご家族に申し訳ないが、百名死んだだけである。一方旧型では毎年一万人が死亡している。比較すればすぐ解ること。何故こんなに騒ぐのか。新型ワクチンの元はユダヤ資本に握られているからだ。戦後ずっとアメリカは原爆を落とした罪悪意識から、日本から物を買つて日本を支えて呉れた。ところが、日本は最近東南アジアへの輸出比率が五割を超え、アメリカには中国より少ない輸出額。鳩山首相はアジアにシフトと云うが決してアメリカを軽視してはいけない。ビス規制のようにどんな手段で報復されるか解らない。普天間基地問題も早急に決着をつけないと、今度は本当に恐

ろしい新々インフルエンザが日本を直撃するかも知れない。

亀井金融相は就任早々、困っている中小企業の返還金を一

定期間猶予すると云っているが、私はそれを三十年前に実行した元祖である。クラリネットのお陰だ。クラリネットを吹いている時にこれ进行い

金利を支払う為にボウリング場地下駐車場を食品市場にしたところ、小売商業特別措置法違反で刑務所入りの寸前。

「あの法律を作ったのはワシや、壊すのは訳ない」と云う弁護士に出会って助けられた。

バブル期、「人間金儲けして死んだ人は一年後に忘れられてしまふ。しかし文化（文学、美術、音楽、建築）を残して死んだ人は五十年、百年後の人にも幸せを与える」というスペイン人経営者の言葉に感動し、長年の夢の「オペラハウスを建てる」と心に誓った。銀行に申し出ると、バブル崩壊と共に貸しはがしにあい、担保不足だと支店長に追っかけられた。

学生時代の音楽仲間が皆プロになっていたので、私も関西フィルの前身ヴィエール・フィルに入団しその後、二十二年間、楽団の代表を務めていたが、オペラパーク南館建設資金融資に当たり、赤字企業を整理せよと言われ、関西フィルをNPOにして退任、現在は名誉顧問に就いている。

この不景気に何故工事をするのかと聞かれる。不景気なればこそ、我々中小企業は仕事にありつけると答えている。昔、アメリカのショッピングセン

ターへ見学ツアーをした時に、ガイドの説明でニューヨークの、あのエンパイアステートビルはどうして出来たのか。アメリカ全土に亘る大恐慌の中、ニューヨーク市長は建築容積率を八〇〇%から一挙に十倍にした。一企業家は直ちに手を挙げた。「不景気の為、鋼材は安い。だから我々は建築することが出来るのだ。デフレ克服、雇用促進へと街の繁栄に繋がる。人に喜ばれて安く造れる。こんな結構なことはない。」と云ったそう

こういう時期なればこそ我々にも金融機関は目をかけてくれる。と云つても今はユダヤの知恵である収益還元方式で融資してもらえ

ら地価は七分の一となり、土地担保では絶対に貸してもらえない。ところがその貸出枠と相見積もりをして、最後に残った建築会社の見積額との間に五億円の差があつた。合理化に合理化を重ね、この金額以下なら工事は請け負えない、降りるという最終見積もりを持参された日の朝刊を見ると、何と日鋼が暴落している。丁度、積算部長も同行されていたので、電卓で個々に計算し直すこと一時間、丁度五億円安くなると云う。真に天佑だ。天にも昇る気持ちになった。二番館・三番館を閉鎖してオペラパーク南館を建てたので、このまま事業をストップすると、会社は永久に赤字の俣だ。ギリギリのところ

で神風が吹き思わぬありがとうと叫んだ。還暦パーティーでチンドン屋

をしたのが認められ、御堂筋パークの丘までチンドン屋をして回ったが、三年前大東市民祭りにチンドンヤで出演し左足骨折。生れて初めての手術に縫い口から黴菌が入り、足は二倍に膨れあがる。骨髓炎の疑いありと再手術。三十七日間の入院で食事、トイレも一人で出来ない状態になり、「わしが、わしが」と突っ走つて来た私が、ご飯を頂く時、苗作りから田植え、収穫、精米、炊飯と、色んな人の手を経て、私は「生かされているんだ」という事を悟り、生れて初めて手を合わせて「有り難とうございます」と唱えた。一心に「有り難とう」を唱えていると、良い事ばかりが起こってきた。

そこで一昨年の書初めに「森羅万象 有り難う」と書いて年賀状を出すと、十人ほどの人から良い事が起こったよとの礼状が届く。

私も大阪桐蔭高校が十七年ぶりに甲子園で優勝して私の作曲した校歌が流れ胸が熱くなった。

私はサンヨー時代から、子供自動車でなく乗用自動車のデザインをするのが夢で、八年前にデザインしたクレオパトラのような美しいラインデザインを意匠申請していたのが、特許庁から登録された。そしてバブル崩壊から地価が暴落し十七年間貸し渋りに会っていたのに「収益還元方式」という新手法で、地価に係なく収入が殖える計画なら融資するという。ようやくオペ

ラパーク南館をダイエー、ユニクロ、赤ちゃん本舗を核に四十の二店からなるSCを一昨年三月にオープンした。ダイエーは目標売上が全国でトップの伸長率を挙げている。現在隣接地に京阪百貨店を中心に東館を建築中である。今年秋オープンを目標に順調に工事が進められている。

物事が上手くいった時とか達成したい時は「達成できた」と過去形にし達成した過程で色々世話になった方々に「感謝します」と唱え、上手く行かなかった時や困った時は教えて頂き「有り難うございました」という「ツキを呼ぶ魔法の言葉」（五日市剛著）を唱えて一歩一歩前進している。南館、東館の売上が順調に推

移し計画通りの収益が得られた時に、最後の北館、「ホテルのあるオペラハウス」が実現でき

る。松下幸之助翁も「夢なきものに理想なし、理想なきものに信念なし。信念なきものに計画なし。計画なきものに実行なし。実行なきものに成果なし。成果なきものに幸せなし。幸せになりなければ夢を持て。」と言っておられる。「地域社会にロマンと夢を」と名刺に書き続けて来たが、間もなくホップ・ステップ・ジャンプの二段階まで皆様のお蔭で到達しようとしている。最後のジャンプはハードルが高いが乗り越えて夢を叶えたい。この原稿を書いている時にニュースが二つ飛び込んできた。日銀のデフレ対策に十兆円

供給したら、金融機関から八倍の八十兆円の要望が出たという。私の思惑が狂ったが、それは亀井金融相の発案で、中小企業の借金返済を猶予して、金利だけ払うという法案が可決し、中小企業が一齐にそれを実行したら、金融機関の金庫は空っぽ、そこで新たに貸し出す為の資金が必要になったのだろうか。

もう一つは年末恒例の清水寺管長による今年の漢字一文字は「新」となった。明治時代から続いた官僚政治が民主党の手により、改革されようとしている。新しい規範が敷かれるようになる。我々も新年を迎えるに当たり、新しいルールを模索し、明るい豊かな日本をめざしましょう。

諸行無常
因果応報

庚寅 大川真一郎

